

秋冬 autumn-winter
2022

vol.
30

春風新聞

shumpu shimbun



春風社
Shumpusha Publishing Co., Ltd.
〒220-0044
横浜市西区紅葉ヶ丘53
横浜市教育会館3F
TEL (045)261-3168
FAX (045)261-3169
www.shumpu.com
✉ info@shumpu.com

- 【図書目録】 哲学・思想・宗教 4 / 文芸評論 5 / 文学・エッセイ 6 / 芸術・音楽・写真 7 / 総記・辞典・事典 7 / 教育 8 / 言語・心理 9 / 観光・環境・自然 9
社会・歴史・政治 10 / 東洋英和女学院大学社会科学叢書 7 / 横浜市立大学新叢書 11 / 立教大学人文叢書 11 / 人類学 11 / シリーズ 来たるべき人類学 12
- 【連載】 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しりあがり寿 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8
コ・プレゼンスの時代へ 吉原直樹 9 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10
- 【コラム】 自著を語る 11 / 春風接人 12



凡そ生命に属する言は、

一語に万意を蘊包す。

故に一を執りて

百を廃する勿れ。

是れ吾が道の常に

心伝心得を貴んで、

文訳を好まざる所以なり。

ことは 『新井奥達著作集』三巻六五八頁

『おうすいポケット 新井奥達語録抄』八六頁より

写真 カラヴァッジョ 『果物籠』

考えること、 過去とつながる ということ

『アラン』『定義集』講義

米山優

(名古屋大学名誉教授)

×
三浦衛

(春風社代表)



『幸福論』の作者として著名なフラン
スの哲学者・アランが残した二六四の
哲学断章を、やわらかな語り口調で丁
寧に訳、注解していく『アラン』『定義
集』講義（幻戯書房、二〇一八）。この
書籍をめぐって、著者の米山優先生と
春風社代表の三浦衛がZoomで対談
を行いました。（二〇二三年八月二日）

「考える」を考える

三浦 米山先生の著作『アラン』『定義集』講義』について伺います。まず、「すごくひらかれている本だな」と感じます。語り口調もその一端を担っていると思います。すが、読むたびに自分の今の興味、関心のありどころによって、いろいろなふう

に読める一冊ですね。

米山 そのとおりだと思います。

三浦 この本を読んだとき、大学に入学したときの喜びとその後の気づきみたいなものが蘇りました。「大学って講義に出なくても、自分でどんどん本を読んで勉強すればいいんだ。自分で考えて、自分の興味関心でどんどん進めればいいんだ。学ぶということ、こんなに自由でいいんだ」という喜びを思い出しました。

米山 もともと講義の草案として書いたもので、学生が飽きてしまつてはどうしようもないわけです。変にウケを狙うわけではないけれど、学生にどうアピールするか、どうやったら近づけるか、ということを考えてながら講義するのが僕の授業のやり方でした。それであんな文体になりました。語り口調で書いたものを授業で配つて、「一頁の最初からいきましよう」と解説する。もちろん、その前に、フランス語の原文解説もしますが、適宜、僕

の配ったプリントに移行して話すので、口調も、基本この本のままです。ただし、実際にはこの本に入っていない余談がたくさんあります。盛りだくさんの内容だから、たつたひとつの定義についても授業に對する皆からのリアクションに對するコメントを解説することも大事でした。他のいろいろなどところで、あの授業に近いことをやってみると、「おもしろい試みですね」とよく言われました。

三浦 「まえがき」にこんなことが書かれています。先生は、大学で教えるという段になつて、概論風の教科書を使うことにしたようですが、「読者の心を掴むような力が無いように感じたのです。力のある散文がどうしても欲しかった」と。おもしろいと思いました。

米山 これは本当に正直な気持ちで、概論風の教科書を使うと、学生があまりにだれるんです。けれど、アランの文章って学生を掴むんですよ。

三浦 それはすごいですね。

米山 すごいでしょう？

三浦 「まえがき」にも、気迫がこもっています。

米山 そうそう、「まえがき」からして、

散文の喜びが踊っています」という感想をもらったことがあります。

三浦 「散文の喜びが踊っている」、すばらしい表現です。

本について、具体的にどんな反響がありましたか。

米山 謹呈したときの反応はかなりいいですね。「最近では『〇時間でわかる△△』という本が多いですけど、本当に大事ななければいけないのはこういう本ですね」と言ってくれた人がいました。それはうれしかったです。ただ、自分で書いている最中も、まさかこんなに厚くなると思わなかったですから、そういう意味で執筆中はまず、「これが本当に世に出るのかどうか」という点に危惧を持っていましたし、「世に出ても一般の人は分厚いから読みづらいだろう、専門家はまず無視するだろう」と思っていましたね。けれど、ある人に言わせると、「こんな本がこの値段なの？ 安い」と。

三浦 わたしも安いと思いました。

「まえがき」で、「注解とはどういうものか？」という話を書かれていました。が、わたしは注解書というのが好きなんです。注解、注解にこそ著者の個性が現れる。注解を読んでいくと、それほどあるからさまでなくても、著者の人となりが見えてくる。学術書、研究書を、注解を補助線にしながら読むことで、本がと

ても立体的になる。

「本づくり」という点で、米山先生の思いの一端が出ていると思つたのは、「まえがき」四頁にある注〇〇一番に、「これから多くの引用を行います。その仕方は、著者・書名・ページ数に限ります。しかも、何回も同じ書物が登場しますが、それに略語を用いることはしません。すぐにどの書物だか分かるようにするためです」と書かれていること

で、こういう風にするから読んでほしい、という気持ちが表れている。講義もそうだったんでしようが、この本全体として、「思索を促す」「考える」を考えると、

「あとがき」にあたる「講義を終えて」に、「あとがき」にあたる「講義を終えて」に、単位を取得したあとと聴講に訪れる学生がいたり、卒業してもまた顔を出してくれた人までいたと書かれている。この講義では勉強して暗記して点数を取ることと違う営みがなされている、それを感じ取った学生がいるということですね。

「自分で書いたから消すな、必ず続けなさい」

三浦 「率直さ」の三七八頁の後ろから二行目、「頭の中では、いろいろと取り留めもないこと、さらにいえば馬鹿げたことを考えたりします。けれども、それをそのまま口に出したりはしない。表現し

ないし、そうした思いを振り払う

のです。選別というか、取捨選択をしている。ところが、それをしない、あるいはできない人もいますのです」とありますが、この「取捨選択」が、すごくおもしろかった。

手足を動かしたり、体全体を動かしていけば、「動いている、行動している」とわかるんだけど、「考える」という行為は静的で、考えていようが、まが、体は動いていない。けれども、「考える」と、「取捨選択」することは、意欲・意思を伴った、極めて積極的な行いなんだなと。春風社は今年が創業二三年目ですけど、以前の職場での編集者生活も合わせると、編集の仕事に就いても三〇年過ぎています。編集とは何かを問われたときにいろいろな言い方ができるわけですが、この本を読んだとき、「考えると、ということが取捨選択だとしたら、取捨選択するということは編集だな」と思いました。

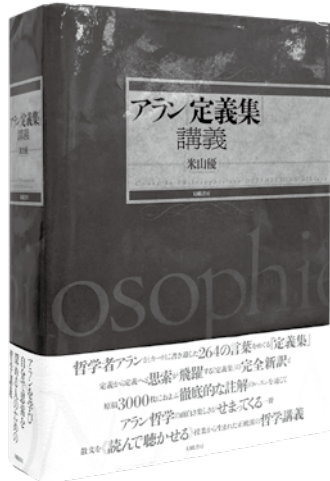
米山 そのとおりです。編集というのは結構重要なものと考えていて、僕の『情報学の基礎』（大村書店、二〇〇二）を、松岡正剛氏が「千夜千冊」で取り上げてくださったのですが、そこでもそのことに触れられていました。

三浦 同じく「率直さ」の章に、「意欲によつてこそ『思考』が成立する」「考える

とは意欲すること」とあります。これが今のわたしにはグッと来るんですね。わたしは出版社の人間なので本をつくるわけですが、本づくりにには思想がないといけないと思つています。文章はある構想のもとに書かれるものですが、どんなに優れた研究者、優れた物書きであつても、きのうの身体と、きょうの身体、あしたの身体は違うから、ある設計図にもとづいて書いても、微妙に違うだろうと思ひます。そうしたときに、先生の本で「考える」を考えると、「そうか、考えること自体でもらうと、「そうか、考えること自体が、もう編集なんだ、積極的な行いなんだ」と、わたしなりに、いわば「発見」できたわけです。

それと、物質としての「本」自体のことを言えば、発掘調査で『万葉集』に収録された歌が記された木簡が出土した、十数年前になりますか、ニュースを思い出しました。木簡に文字を書いて紐で結わえている、というのが本の基本的なイメージとしてわたしにはあります。

米山 それに関してちょっと重要なのは、アランの文体はプロポ（短文のコーラム形式）



であることです。プロボは新聞に発表したものですから、短文がそれこそ木簡のように独立して、次、次、次と出てくる。しかも重要なのは、その書き方で、文章を書くときに、「絶対消しちやいけなさい」と自分で書いて消すな、必ず続けなさい」と言うんですよ。三浦さんの今のお話で言えば、きょうの木簡、あしたの木簡とあるように、続けていくんですよ。同じことについての文章でも日によって、アランは何回も書くんですよ。それは、「前のものがだめだったら、それを破棄して」ということではない。「このときはこう考えた、でも今はそれとは別に、もう一度考え始めるぞ」ということなんです。

三浦 それはすぐリアリティがありますね。
米山 そうでしょう。以前のものにあぐらをかいていると、それはできないんですよ。過去の栄光にすがってばかりいると新たなものはできないし、何かを本当に書くこともできないとアランは言っているんです。少なくとも書く最中には「これまでのもを捨てる」という強烈な意志が必要で、彼のものを読んでみると、それはひしひしと感じます。

葡萄の樹が、時が来れば 新に房をつけるように

三浦 繰り返し読む中で何度も目が止まるのは、「痛悔」「隠すこと」「雄弁」「へつらい」「無頓着」「詩」「礼儀」「決断」あたりです。特に「隠すこと」は、わたしの仕事も含めて、すごく響いてきます。「自分が表現しようと意志することしか決して表現しないような性向」というアランの言葉があつたあと、『思索と行動のために』からの引用文に傍点が付けてあって、「気分の即興をあまり信用しすぎない」。これはグツと来ますね。

米山 来ます、来ます。

三浦 「隠すこと」では、いろいろなことを考えさせられました。『聖書』の「マタイによる福音書」六章の五節「祈るときには偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りの角に立つて祈ることを好む。よく言っておくが、彼らはその報いを受けてしまっている」。ことごとく重なるんですよ。「隠すこと」がいかに大事か。わたしは若いとき、むしろ気分の即興が大事だ、と思っていた時期がありました。けれど、歳を重ねるに従って、どうもそうじゃないと感じてきました。

春風社を興したとき、この仕事は日銭を稼ぐだけではもたない、精神的な土台がほしい、と思つて、全一〇巻の『新井奥邃著作集』を出しました。新井奥邃の言葉に「日用常行」があります。「何事によらず、日々きちんとして行うことがまず第一、時間があつたら本を読みなさい」という「日用常行」と、「自分が表現しよう」と意志することしか決して表現しない」というのが重なるんですね。ここに何かアランという人の意志や意欲、(あとのほうに)主知主義と主意識という言葉も出てきますが)考えることと意志との関係について、この本を読みながら何度も考えました。

米山 それに関連して言うと、僕の教え子の結婚式で「何か書いていただけませんか」と頼まれたときに寄せたのが「愛している限り、気分よりも礼儀のほうが本物だ」というアランの言葉でした。気分と意識はそれに乗っかってしまつてもいいのかもしれない、もし君が相手を愛しているのだつたら、気分よりも礼儀のほうが大事なんだぞ、ということですよ。即興というのは、大体が現在の動きです。例えば、言い争いは、現在の言葉に対して現在で対応しているだけです。現在だけじゃなくて過去も慮っているからこぼれぬるわけで、現在のかかわりだけではなくて過去とどうかわかるか、普段の行動

でも問題になるんです。つまり、「隠すこと」と「礼儀」は密接にかかわっている。

三浦 その「礼儀」には五つのことが書かれていて、本当に味わい深い。「礼儀の第一の規則は、意志することなしに表わさないことである。第二の規則は意志しているということが当の礼儀の中に現れないことである」。

米山 そう、いいですね。

三浦 すばらしいですね。「第三の規則は、自分の行為のすべてにおいて、しなやか[souple]であることである。第四の規則は、決して自分のことを考えないことである」。

その後には、マルクス・アウレリウスの『自省録』が引用されていますが、この言葉もすばらしい。「ある人は他人に善事を施した場合、ともすればその恩を返してもらつてもりになりやすい」。そのとおりです。「第二の人はそういう風になりがちではないが、それでもなお心ひそかに相手を負債者のように考え、自分のしたことを意識している」。ここもすぐリアルで、耳が痛い。「ところが第三の人は自分のしたことをいわずに意識していない」。そこでアウレリウスはこう続けます。「彼は葡萄の房をつけた葡萄の樹に似ている。葡萄の樹はひとたび自分の実を結んでしまえば、それ以上なら求むるところはない。あたかも馳場を去つた馬のごとく、獲物を追い果せた犬のごとく、また蜜をつくり終えた蜜蜂のように。であるから人間も誰かによくしてやったら、(それから)利益をえようとせず」別の行動に移るのである、あたかも葡萄の樹が、時が来れば新に房をつけるように」。すばらしいですね。こうはできないけれども、こういうことを忘れたくはない。

米山 そのとおりです。僕は授業でも、これをよく引用しました。そうすると、「できないよ」「できないから意味

がない」と言ってくる学生もいるけれども、「できないけれど、いいですね」と言

つてくる学生もいる。そういう二つの反応があるんです。ただ、「できない」と言われたときに、じゃあそういう学生にはどう伝えたらいいのか、授業をしていると悩むところですよ。葡萄の樹の例のように、また別の例を頭に浮かべることができたらいいでしょうけれど、そこまですぐにはできません。「できない」と言つた人が読んでくれるかわからないけれど、遅ればせながら僕が伝えたいことを書き記したのが、結局この本です。校正の際に、講義の草案を見直して修正を加えるためのポイントの一つとして、そういう学生を頭に浮かべたり、あるいは、よい反応をくれた学生を事例としてそのまま出さず、そのよい反応を文章の中でどう展開したらいいかということ念頭に置きました。かなり疲れる作業でしたが(笑)。

三浦 たいへんな作業ですね。でも、冒頭で申し上げたとおり、これはすぐくひらかれている本です。何度でも読めるし、これをベースにして、いろいろな方向に広がるし、またここに帰ってくるでしょう。

晩年のアランが 突きつけた課題

三浦 いわゆる古典は、時間が経つても読み継がれるものですが、現代のものでも古典はある。わたしは、この本はそういう本だと思えます。三回通読したけれど、その都度、読み方が変わります。米山先生がこれを書かれたときの、頭の中だけではない、いろいろなものが、ここに表れているように感じています。

米山 そうですね。ずっと何年も考えてきて、実は、近々もう一冊本を出す予定があります。「リンク」「つながり」をメインにして哲学する、というテーマです。

三浦 いいですね。

米山 そこで「つながり」について論じるときに、古典の話をちよつと出したんです。例えば「動物のつながりはどうなんだろう」と考えるときに、アランはオーギュスト・コントの言葉を引用しながら、「現在の協力関係だ」と言います。そこで僕は「人間は過去とつながるよ」という話を書いたんです。「古典とつながること、今自分が考えていること、自分が書いていること、自分が読んでいること、自分が持っていること、自分がつくことなんだ」という話をして、「過去とのつながりができるのは、何かを読解するということにある」と。コントは、それを「記念する」と言いました。例えば、「動物は神殿をつくるだろうか、動物は過去のすばらしい行動をとつた仲間を記念して記念碑をつくるだろうか、つくらないだろうか。ところが、人間はつくらない」。人間は今生きている自分が、過去のあのすばらしい行いと結びつきながら生きていくということを知っている」というのが、アランやコントの考えです。

古典というのはそうやって読み継がれてきて、今生きている人が、その過去とつながろうとしているからこそ読まれていく、という話を書いた。だから、ちょっと神秘的に思われるかもしれないけれど、たとえばアランについての本を書いたとき、まるで彼が乗り移ってくるような瞬間があるんです。神秘的な言い方を避ければ、「あの人の思想の動きとつながる」ということ、ベルクソンで言えば「跳躍」(élan)ですね。それが僕に影響してくるのが「つながる」ということだし、古典の意味なのか、と考えています。

三浦 最後にお尋ねします。今の時点でアランについて感じておられることを、お話しいただけますか。

米山 アランは晩年に「個人」ということについて慎重に検討し始めた、というこ

とがあります。フランス人は個人主義で有名で、彼自身もフランス革命以来の「個人」というものの大事さ、「ライシテ」(laïcité)、宗教からの自由、そういうことも考えていた。彼自身、非常にラディカルな人でキリスト教についてはよく悪口も言いますが、晩年にはどうやら、宗教とまでは言えませんが、個人主義の徹底だけではうまくいかないものにもう一度ぶち当たつてみるか、と考え始めたのではないか。

アランが晩年に書いた、『心の冒険』(Les Aventures du cœur)を、すでに翻訳が終わつて出そうとしているのですが、この本では最後、「永遠なもの」について論じて終わります。「永遠なもの」という主題を本の最後に置いて、しかも、その前のほうにはキリスト教のペンテコステ(聖霊降臨祭)について一章を割いている。アランが、ベルクソンみたいに洗礼を受けて死んだとかキリスト教に戻つたわけではないです。ただ、この本は一九四三年七月脱稿ですから、第二次世界大戦の最中ですね。まさに戦争を目の前にして、アランは絶対平和主義を主張しようとした。けれど、例えばレジスタンスに参加したサルトルは実存主義者となり、本当に個人を前面に出して、「単独者」「個人」とは対立したレヴィ・ストロースも、結局はヨーロッパ中心主義という意味で、無意識のレベルでは個人主義を採つていたのではないかと気が、僕はしています。どうもアランは「それではだめかもしれない」ということに気づいたんじゃないか。アランという人は最後の最後で、また僕に課題を突きつけていつてしまったな、という感じですよ。

三浦 きょうは本当に楽しかったです。ありがとうございました。

米山 ありがとうございます。

哲学・思想・宗教



◎各書籍の左下に¥で示している数字は税抜価格です。

新版 大地の哲学

三位一体の於てある場所

小野寺功 (清泉女子大学名誉教授)

西田幾多郎と新井奥邃をむすぶ聖霊の息吹。故郷岩手の風土に根ざし、育まれ、ひたすらに求めてきた著者畢生の思索。ここに結晶する。四六判上製・三四〇頁 定価(3200円+税) ISBN 978-4-86110-839-6

日本の神学を求めて
小野寺功 (清泉女子大学名誉教授)
キリスト教の日本への受肉化(インカルチュレーション)を生涯のテーマとしてきたキリスト者である著者の初期の直観的思考。初めての書籍化。
ISBN 978-4-86110-809-9 ¥2200

死ぬ権利はあるか—安楽死、尊厳死、自殺助の是非と命の価値 有馬斉(横浜市立大学准教授) ISBN 978-4-86110-624-8 三刷電子版あり ¥4300

朝鮮儒学の巨匠たち 韓亨祥(韓国学中央研究院教授)著/片岡龍(東北大学教授)監・解説 朴福美(韓国語教学主任)訳 ISBN 978-4-86110-500-5 ¥5500

「たゞ人間であること」が持つ道徳的価値—相互に尊重し合う自由で平等な個人が築く民主主義 浜野研三 ISBN 978-4-86110-636-1 ¥3500

論理学 はじめの二歩—オイラー図とベン図で知る伝統的論理学 菅沢龍文(法政大学教授) ISBN 978-4-86110-738-2 ¥1300

日本におけるイスラーム研究史—中国篇 アリム・トヘイ(東北大学助教) ISBN 978-4-86110-632-3 ¥4000

キルケゴールの生存解釈—自己と他者 河上正秀(筑波大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-597-5 ¥3500

深い河の流れ—宗教多元主義への道 長谷川(間瀬) 恵美(桜美林大学准教授) ISBN 978-4-86110-604-0 ¥2200

そこには何かがある—「この自分」が在るといふ不思議 牟田隆郎(元聖学院大学教授) ISBN 978-4-86110-612-5 ¥1800

人間形成としての教養—ハンガリー、フュンペンド、日本におけるドイツ的理論の受容と採集 高橋輝暁 編 ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2000

律から密へ—晩年の慈雲尊者 秋山学(筑波大学教授) ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

巫者のいる日常—津軽のカミサマから都心のスピリチュアルセラピストまで 村上晶(駒澤大学講師) ISBN 978-4-86110-558-6 二刷 ¥3500

哲学 はじめの二歩 楽しむ／働く 立正大学文学部哲学科編 楽しむ ISBN 978-4-86110-541-8 働く ISBN 978-4-86110-542-5 各 ¥1500

哲学 はじめの二歩 全四巻函入 立正大学文学部哲学科編 ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥3241

鈴木大拙の「日本的霊性」—エマヌエル・スウェーデンホルグ新井奥邃との対比から 那須理香 ISBN 978-4-86110-554-8 ¥4500

姿を変えたキリスト—みなし子を育てたシスターたち 菊地章太(東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-475-6 ¥2200

思想家としての石橋湛山—人と時代 山口正(石橋湛山記念財団評議員) ISBN 978-4-86110-472-5 二刷 ¥3000

徂徠と奥邃 末木恭彦(駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-494-7 ¥3500

随想 西田哲学から聖霊神学へ 小野寺功(清泉女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-464-0 ¥3500

エコ・ファンタジー—環境への感度を拡張するために 山田利明(東洋大学名誉教授)・河本英夫(東洋大学教授)編 ISBN 978-4-86110-468-8 ¥3500

越境する哲学—体系と方法を求めて 村上勝三(東洋大学名誉教授)・東洋大学国際哲学研究センター編 ISBN 978-4-86110-478-7 ¥5500

長谷川宏

日々の風

暮らしのなかの哲学

25 猛暑のなかで

一九四〇年生まれの高齢者のわたしには、今年の夏の暑さはさすがにこたえた。去年の夏は気を引き締めようとしてかえって疲れのたまることが多かったから、今年は一転、のんびり過ごそうと覚悟を決めていたのだが、なかなかのんびりした気分になれない。

二、三年前から本を読んだりものを書いたりしているときの集中力の衰えは確実に感じられていて、机に向かう時間を少なくして休息時間を取ったり、傾向のちがう本を二、三冊並行して読んだり、あれこれ工夫してみるのが、これでよしという方策が見つからない。暑い日はきまつて夕方に疲労がたまり、気だるさを振り払えない。年を取ればそれが当たり前かとも思うが、そう思っても気が休まらない。

根にあるのは、ぼんやりと、あるいはのんびりと時を過ごすことのむずかしさらしい。なにかに打ちこんで集中力を発揮できる境遇や場面をつい求めるようなのだ。ほめられた話ではない。集中して時を過ごすのはそれなりの充実感はあるが、しかしゆとりに欠ける。

集中力はゆるやかさと平衡を保つことによつてこそゆたかさへの道が開けると言うべきだろう。

しかし、本を読み、ものを書くという営みは集中力を必要とし、わたしはその営みをまあ多少なり喜びとしている。そんなわたしがこの年になって、読書や執筆の場面で集中力の衰えを実感し、のんびりした時の過ごし方をうまく活用したく思っても、そうは問屋が卸さない。困ったものだ。わたしの日常感覚としては、やや遠くのスーパーマーケットに買物に行くときや、ひとりで朝食を摂りながらショパンのピアノ曲を聴くといったときに、ぼんやりとした時間の実感をもてるが、机に向かう時間はそれと容易に交流も融合もしてくれないのだ。

年を重ねて容赦なく感じられる体力の変化に、心がゆつたりとついていくのはそう易しくはないな、と改めて思う。それが年を取ることかもしれない。この夏はそんな愚痴めいたことも思っていた。(哲学者)

新井奥邃

死生学—死の隠蔽から自己確信へ 岩崎大(東洋大学東洋学研究所客員研究員) ISBN 978-4-86110-438-1 ¥3982

虚構の形而上学—「あること」と「ないこと」のあいだで 中村靖子(名古屋大学教授)編 ISBN 978-4-86110-436-7 ¥3500

サルトルとマルクス—II 北見秀司(津田塾大学教授) ISBN 978-4-86110-213-4 / ISBN 978-4-86110-214-1 電子版のみ各巻 ¥3333

リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション 稲垣論(東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-303-2 三刷 ¥2381

横超の論理—ローティ、ハイエク、シンガーを超えて 谷口隆一郎(聖学院大学教授) ISBN 978-4-86110-393-3 ¥3333

直接知の探求—西田・西谷・ハイテッカー・大拙 松丸壽雄(獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-347-6 ¥4000

《文化》の思想—現代日本の位置から 西欣也(甲南大学教授) ISBN 978-4-86110-323-0 ¥2200

『方法叙説』をめぐる六つの試論—「日本の思维」と西欧の思维に介在する深淵 小林利夫著/徳永雅編 ISBN 978-4-86110-254-7 電子版のみ ¥3619

幻想と怪奇の英文学

新井奥邃著作集(1、4、10巻品切) 工藤正三(新井奥邃先生記念会幹事)・コールドニエル(元福岡女子学院大学教授)共編 各巻 ¥6500

奥邃論集成 春風社編集部編 ISBN 978-4-86110-424-4 ¥2700

おうすいポケット 新井奥邃語録抄 三浦衛・コールドニエル編 白表紙 ISBN 978-4-86110-454-1 黒表紙 ISBN 978-4-86110-455-8 各巻 ¥2200

幻想と怪奇の英文学 II—増殖進化編 東雅夫・下楠昌哉編 ISBN 978-4-86110-516-6 ¥3200

幻想と怪奇の英文学 III—転覆の文学編 東雅夫・下楠昌哉編/ローズマリー・ジャクスン著/下楠昌哉訳 ISBN 978-4-86110-622-4 ¥3700

幻想と怪奇の英文学 IV—変幻自在編 東雅夫・下楠昌哉編 ISBN 978-4-86110-699-6 ¥3000



多様な関係からいかにして知覚主体としての「わたし」が生まれるのか。 ISBN 978-4-86110-748-1 ¥3800

環境を批評する—英米系環境美学の展開 青田麻末(群馬県立女子大学講師) ISBN 978-4-86110-698-9 ¥4000

小鳥が歌う—古いホルトガル語による聖母マリアの詩 菊地章太(東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-694-1 ¥3600

16世紀後半から19世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における(朱子学)遷移の諸相 片岡龍(東北大学教授) ISBN 978-4-86110-681-1 ¥5400

終わりの風景

英語圏文学における終末表象

辻和彦 (近畿大学教授)・平塚博子 (日本大学准教授)・岸野英美 (近畿大学准教授) 編

文学作品において描かれる環境問題、自然災害、社会変動などの終末表象に着目し、「終わり」を新たな可能性として捉え、読み解く10の論考。

A5判並製・二四〇頁 定価(3100円+税)
ISBN 978-4-86110-823-5 電子版あり



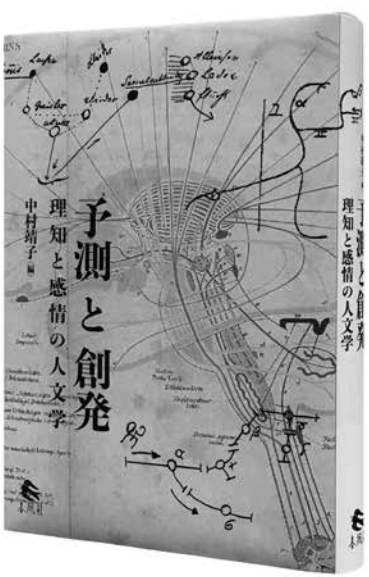
予測と創発

理知と感情の人文学

中村靖子 (名古屋大学大学院教授) 編

ドイツ文学、フランス文学、心理学、インド哲学、応用数学、感情史、美術史などの諸分野を横断。「予測と創発」をめぐる11の思考のドラマ。

四六判上製・五〇〇頁 定価(4500円+税)
ISBN 978-4-86110-836-5



戯作者の命脈―坂口安吾の文学精神
大原祐治 (千葉大学教授)
無数/無名の「ラムネ氏」たちが「自らの生を尊びバトンを渡す」す反復に歴史の実相を見る戯作者の魂。安吾もまた一人の「ラムネ氏」だ。
ISBN 978-4-86110-811-2 ¥4000

《線》で読むディケンズ―速記術と想像力
松本靖彦 (東京理科大学教授)
『骨董屋』『クリスマス・キャロル』などのディケンズの作品世界で繰り広げられるドラマを《線》にまつわる問題として捉え、人物造形における想像力の働き方を解き明かす。
ISBN 978-4-86110-747-4 ¥3600

書きかえる女たち―初期近代英国の女性による聖書および古典の援用
竹山友子 (関西学院大学教授)
聖書や古典作品などの権威ある書物を巧みに書きかえ、キリスト教にもとづく男女の規範に挑んだ女性たちの執筆活動を明らかにする。
ISBN 978-4-86110-780-1 ¥3900

まっぴの風景―フアン・ルルフォの創作と技法 仁平ふくみ (京都産業大学准教授)
ISBN 978-4-86110-784-9 ¥4500

ジャコモ・レオバルディー―ロマン主義的自然観と《無限》の詩学 古田耕史 (早稲田大学准教授)
ISBN 978-4-86110-801-3 ¥6000

十八世紀スイス文学とシュトゥルム・ウント・ドラング―源流としての美的共和主義 今村武 (東京理科大学教授)
ISBN 978-4-86110-775-7 ¥4000

フォークナーの『サンクチュアリ』再読/改稿―語り手の再編成 岡田大樹 (専修大学非常勤講師)
ISBN 978-4-86110-779-5 ¥3500

森鷗外、創造への道程
小倉斉 (愛知淑徳大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-789-4 ¥5364

自然と人生とのあいだ―自然主義文学の生態学 永井聖剛 (愛知淑徳大学教授)
ISBN 978-4-86110-790-0 ¥4291

文学とアダプテーション―ヨーロッパの古典を読む 小川公代 (上智大学教授)・吉村和明 (上智大学名誉教授) 編
ISBN 978-4-86110-755-9 ¥3600

希望の本質―サミュエル・ジョンソンの思想と文学 石井善洋 (広島修道大学教授)
ISBN 978-4-86110-776-4 ¥3500

我、アメリカノ敵ヲ発見セリ―ハインラインの青少年向け小説における白人性 鳥克也 (安田女子大学講師)
ISBN 978-4-86110-746-7 ¥3900

漱石論集 ニーへのゆぐえ
斉藤恵子 (大妻女子大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-763-4 ¥4500

日本英語文化学会創立45周年記念論文集 英語文化研究 日本英語文化学会 編
ISBN 978-4-86110-745-0 ¥4000

ジェイン・オースティンのクロテスクな笑い―困った人たち 岡本由恵
ISBN 978-4-86110-731-3 ¥3600

モダニズムの冒険―ヴァージニア・ウルフと同時代の小説における食の表象 大西祥恵
ISBN 978-4-86110-690-3 ¥2700

異形のビュリタン―ジョン・ウィンストップ・ジュニアとトランスアトランティック・トランザクション 佐藤憲一
ISBN 978-4-86110-712-2 ¥3900

ブルーロックの世界―T・S・エリオットの限りなく悩めるもの 遠藤光 (実践女子短期大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-672-9 ¥4500

スコットランド文学の深層―場所・言語・想像力 木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授) 編
ISBN 978-4-86110-689-7 ¥3700

American Measure: William Carlos Williams's Vision of Free Verse 吉田亞矢 (京都大学特任講師)
ISBN 978-4-86110-732-0 ¥5000

中世英語文学研究の多様性と展望 菊池清明・岡本広毅 編
ISBN 978-4-86110-714-6 ¥8000

最強の男―三國志を知るために 竹内真彦 (龍谷大学教授)
ISBN 978-4-86110-702-3 ¥2000

個から群衆へ―アメリカ国民文学の鼓動 佐久間みかよ (学習院女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-663-7 ¥3400

神西清の散文問題 小林実 (十文字学園女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-667-5 ¥3900

ポール・ホルズ 越境する空の下で 外山健二 (山口大学教授)
ISBN 978-4-86110-683-5 ¥4500

Shakespeare Performances in Japan: Intercultural-Multilingual-Translingual 浜名恵美 (筑波大学名誉教授) 編
ISBN 978-4-86110-657-6 ¥5500

救いと寛容の文学―ゲーテからフォークナーまで 今村武 (東京理科大学教授) 他
ISBN 978-4-86110-654-5 ¥3500

めぐりあうテキストたち―フロンテ文学の遺産と影響 惣谷美智子・岩上はる子 編
ISBN 978-4-86110-629-3 ¥3500

『ハタローン』を読む―ウィリアムズの長篇詩 江田孝臣 (早稲田大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-645-3 ¥3500

ジョイスの拡がり―インターテキスト・絵画・歴史 田村章 (金城学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-625-5 ¥3500

未完のカミュ―絶えざる生成としての揺るぎ阿部いそみ (東北文科大学教授)
ISBN 978-4-86110-623-1 ¥3700

翻訳とアダプテーションの倫理―ジャンルとメディアを越えて 今野喜和人 (静岡大学名誉教授) 編
ISBN 978-4-86110-621-7 ¥3500

D・H・ロレンスと雌牛スーザン W・ティンタール 著/木村公一・倉田雅美・小林みどり 訳
ISBN 978-4-86110-627-9 ¥4000

揺れ動く「保守」―現代アメリカ文学と社会 山口和彦 (上智大学教授)・中谷崇 (横浜市立大学准教授) 編
ISBN 978-4-86110-609-5 ¥3500

黙って離れ、エレクトラー・ホフマンスタールの言語危機と日本 関根裕子 (早稲田大学他非常勤講師) 編
ISBN 978-4-86110-637-8 ¥4200

非在の場を拓く―文学が紡ぐ科学の歴史 中村靖子 (名古屋大学大学院教授) 編
ISBN 978-4-86110-635-4 ¥4100

アメリカは日本文化をどう読んでいたか―村上春樹 吉本ばなな 宮崎駿 押井守 芳賀理彦(敬愛大学准教授) 編
ISBN 978-4-86110-605-7 ¥3000

エミリー・ディキンソンを理詰めで読む―新たな詩人像をもとめて 江田孝臣 (早稲田大学名誉教授) 編
ISBN 978-4-86110-605-7 二刷 ¥3000

アレゴリーで読むアメリカ/文学―ジェンダーとコジックの修辞学 武田悠一 (元南山大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-569-2 ¥3500

一人の詩人と二人の画家―D・H・ロレンスとニューメキシコK・メルル 著/木村公一・倉田雅美・伊藤美智子 訳
ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100

外見の修辞学―十九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸言説 福井崇史 (國學院大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-581-4 ¥4000

グロテスク・美のイメージ―トムス・アウレア、ピラネージからフロベールまで 武末祐子 (西南学院大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-588-3 ¥3200

文学という名の愉楽―文芸批評理論と文学研究へのアプローチ 寒河江光徳 (創価大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-595-1 ¥2200

世紀末の長い黄昏―H・G・ウェルス試論 宗洋 (高知大学准教授)
ISBN 978-4-86110-550-0 ¥2700

松本清張の葉脈 南富鎮 (静岡大学教授)
ISBN 978-4-86110-557-9 ¥2700

キャサリン・マンスフィールド―荒地を吹き渡る風のように自由 手塚裕子 (川村学園女子大学名誉教授) 編
ISBN 978-4-86110-553-1 ¥3200

文学都市ダブリン―ゆかりの文学者たち 木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授) 編
ISBN 978-4-86110-518-0 ¥3700

カポーティ小説の詩的特質―音と文彩 大園弘 (九州国際大学教授)
ISBN 978-4-86110-521-0 ¥3200

バルザックの文学とジェンダー―女性作家との比較から分かること 東辰之介 (駒澤大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-533-3 ¥3600

スコットランド―一八〇三年―ワースワス兄妹とコールドリッジの旅 安藤潔 (関東学院大学名誉教授) 編
ISBN 978-4-86110-529-6 ¥2700

帝国と文化―シエイクスピアからアントニオ・ネグリまで 江藤秀一 (常葉大学学長) 編
ISBN 978-4-86110-517-3 ¥3500

パブリック圏としてのイギリス演劇―シエイクスピアの時代の民衆とドラマ 中村友紀 (関東学院大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-501-2 ¥3000

T・S・エリオットの詩を解読する 滝沢博 (元高岡法科大学教授)
ISBN 978-4-86110-476-3 ¥2200

フロンテ小説における病いと看護 川崎明子 (駒澤大学教授) 編
ISBN 978-4-86110-427-5 電子版あり ¥3500

秘密のフレイガン―戦後英国演劇のなかのフランス・メディア空間 大谷伴子
ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700

マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」―英国史劇とブルコニコ公園 大谷伴子
ISBN 978-4-86110-419-0 二刷 ¥2700

交錯する戦争の記憶―占領空間の文学 黄益九 (在日コリアン研究所) 編
ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300

アントニオ・タフッキ 反復の詩学 花本知子 (京都外国語大学准教授) 編
ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000

文学・エッセイ



果樹園の守り手

コーマック・マッカーシー 著
山口和彦 (上智大学教授) 訳
デビュー作初訳。権力や法の支配を避け、社会の末端で暴力に晒されながら生きる者たちの姿を描く。一九三〇年代米南部を舞台とした、交差する三人の物語。四六判並製・三二六頁 定価(2500円+税) ISBN 978-4-86110-832-7



祇園祭の物語

小谷野裕子 (エッセイスト)
二〇年以上にわたって祇園祭の取材を重ねてきた著者が、その魅力と歴史を語る。伝統文化を守り支える人たちの姿を活写！ カラー図版も掲載。四六判並製・三〇〇頁 定価(2000円+税) ISBN 978-4-86110-816-7



句集 噉

三浦衛 (春風社代表)
故郷秋田の光と山河から生活の諸事方端までの春夏秋冬を詠む。佐々木幹郎氏による序詩「一人の男——三浦衛句集に寄せて」を併収。A5変形判上製・函入・三〇〇頁 定価(2500円+税) ISBN 978-4-86110-814-3

わたしの学術書——博士論文書籍化をめくって
春風社編集部編
生きていくなかで「深く学ぶこと」を軸に据え、学術出版社・春風社で博士論文を出版した研究者総勢五八名による、博士論文書籍化体験記エッセイ。
ISBN 978-4-86110-761-0 ¥2000

ユゴー詩アンソロジー 夏の雨・冬の天使
ウィクトル・ユゴー 著
宇多直久 (元滋賀大学講師) 編訳 ユゴーの古典的研究者バレルの「人間の側にあるのはエロス、自然の側にあるのは牧神パン」の思想を踏まえ、精選した愛惜の訳詩五〇余篇。
ISBN 978-4-86110-810-5 ¥4000

アヴェルノ
ルイーズ・グリニョック 著／江田孝臣 (早稲田大学名誉教授) 訳
自伝は神話化され、神話は自伝化される。抒情と暗示と謎に富むその作品は、読む者を魂との対話に誘う。ノーベル文学賞受賞女性詩人の第一〇詩集、初訳。
ISBN 978-4-86110-792-4 二刷 ¥2000

ピロシイ・ダンボ
ジョージ・チャップマン 作／川井万里子 (東京経済大学名誉教授) 訳
ISBN 978-4-86110-777-1 ¥3100

こころの気づき—カフカの短篇を読む
松原好次 (元電気通信大学教授)
ISBN 978-4-86110-754-2 ¥2700

対談集 春風問学
春風社編集部編
ISBN 978-4-86110-768-9 ¥1800

文の風景 ときどきマンガ、音楽、映画
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-749-8 ¥3500

学ゆりかご—母と娘のディスタンス
春風社編集部編
ISBN 978-4-86110-743-6 ¥1800

ロバート・フロスト詩集 ニューハンプシャー
藤本雅樹 (元龍谷大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-715-3 ¥4000

鎌倉山奇譚 水琴窟の館
ソーントン 不破直子 (日本女子大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-696-5 ¥1500

コマシ狂騒曲—旅する「小枝通信」より
堤小枝子 (ツツヤスミ)
ISBN 978-4-86110-697-2 ¥1500

永遠なるカミーノ—フランス人作家による「もう一つのサンティアゴ巡礼記」今野喜和人訳
ISBN 978-4-86110-674-3 ¥2500

荒地 T・S・エリオット著
滝沢博 (元高岡法科大学教授) 訳・解説
ISBN 978-4-86110-649-1 ¥2900

翻訳ピンチ!

中条省平 SHOHEI CHUJO

29

プルースト翻訳始末記 その2

前回は、15年前に白夜書房からフランスのマンガ版『スワン家のほうへ』の翻訳を出したところまででした。

その翻訳がそれなりに評判を呼び売れたので、編集者との打ち上げに、当時白夜書房の社長だった末井昭さんも加わってくれて、高田馬場にある、パチンコ雑誌で儲けて作った立派な白夜書房社屋のすぐそばのイタリア料理屋でスパゲッティを食べました。

末井さんは、「白夜がプルーストを出すなんて、おフランス好きの上品な人たちはなんと思うでしょうねえ」とやさしい微笑みを浮かべながら話していました。

続編の『花咲く乙女たちのかげに』の1冊目も翌年に出せたのですが、その後、マンガ版プルーストの企画を推進してくれた編集者が白夜書房をやめてしまい、結局そこで中断してしまいました。

この間、フランスのマンガ版を描いているステファヌ・ウエは、当初の計画を大幅に変更し、『失われた時を求めて』の第1部『スワン家のほうへ』と第2部『花咲く乙女たちのかげに』を、それ

ぞれ4冊からなる全部で8冊の大作に発展させていました。

そして、『花咲く乙女〜』の最終巻が出たのは昨2021年のことです。『スワン家〜』の1冊目が出たのは2004年ですから、17年以上かかって、『失われた時〜』全体のほぼ3分の1をマンガにしたわけです。ウエさんはいま65歳ですから、同じペースで制作したとして、完成するのは……99歳、無理だろ。

しかし、白夜書房版の中断を惜しむ編集者の赤羽高樹さんが尽力してくれ、祥伝社の栗原和子さんがゴーサインを出してくれたので、第1部『スワン家〜』4冊分を1巻にまとめた邦訳完全版に続いて、この8月に、第2部『花咲く乙女〜』の邦訳完全版も出すことができました。

鈴木道彦、吉川一義、高遠弘美の諸家の素晴らしい訳業をつねに参照させていただきました。ひたすら感謝です。(仏文学者)



イラスト: たけなみゆづり

イヴの娘 オノレ・ド・バルザック 著
宇多直久 (元滋賀大学講師) 訳
ISBN 978-4-86110-628-6 ¥2100

バルザック王国の裏庭から—『リュジエリーの秘密』と他の作品集 宇多直久 (元滋賀大学講師) 編訳
ISBN 978-4-86110-544-9 ¥2500

詩集 時のなかに
北岡武司 (岡山大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-616-3 ¥1800

古英語叙事詩『ベオウルフ』—クレイバー第4版対訳 吉見昭徳 (明治学院大学名誉教授) 訳
ISBN 978-4-86110-572-2 ¥4000

鐘の音が響くカフェで ポール・ヴァツカ 著
田村奈保子 (福島大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-606-4 ¥2500

二つの季節
松永澄夫 (東京大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-601-9 ¥1000

孤独な殿様
ソーントン 不破直子 (日本女子大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-617-0 ¥1500

画文集 旅の貼り絵
安田彰 (元亜細亜大学教授)
ISBN 978-4-86110-546-3 ¥1750

鎌倉三猫物語
ソーントン 不破直子 (日本女子大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-430-5 ¥1500

鎌倉三猫いままた
ソーントン 不破直子 (日本女子大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-515-9 ¥1500

クリスマス・キャロル チャールズ・デイケンズ 著／井原慶一郎 (鹿児島大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-474-9 二刷 ¥1500

スウェーデン民話名作集 葦下紘一 訳
III ISBN 978-4-86110-339-1
IV ISBN 978-4-86110-368-1 各巻 ¥1905

いないも同然だった男 パトリス・ルコント 著／桑原隆行 (福岡大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-458-9 二刷 ¥1800

お爺ちゃんとお爺ちゃん オタ・フィリップ 著
北岡武司 (岡山大学名誉教授) 訳
ISBN 978-4-86110-446-6 ¥2500

人生の請求書
石橋幸子 (カンチ社代表)
ISBN 978-4-86110-410-7 ¥1300

横浜の時を旅する—ホテルニューグランドの魔法 山崎洋子 (作家)
ISBN 978-4-86110-296-7 五刷 ¥1600

鱒 hadahada
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-610-1 ¥2200

カメレオン
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-473-2 ¥2200

マハーウマキまたは巫山の夢
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-342-1 ¥1957

父のふもと—秋田往来
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-243-1 ¥1905

出版は風まかせ—おとぼけ社長奮闘記
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-193-9 ¥1300

谷川健一全歌集
谷川健一 (民俗学者・歌人)
ISBN 978-4-86110-104-5 ¥3800



近代市民社会の信仰と音楽

オラトリオは「聖」か「俗」か

瀬尾文子 (国立音楽大学准教授)

19世紀ドイツの市民社会において、オラトリオという「教会と劇場の間」で揺れ動くジャンルは、どのように変容したのか？メンデルスゾーン作『エリヤ』の楽曲分析などをもとに、宗教的な題材の芸術化、また、それを演奏するということについて一考を促す刺激的著作。

A5判上製・四〇頁 定価(5,000円+税)
ISBN 978-4-86110-838-9

演劇の公共圏
クリストファー・バルミ著 / 藤岡阿由未 (福山女学院大学教授) 訳
「公共圏」の視点から演劇の歴史を辿り、民主主義の議論の場における「制度」として演劇がどのような役割を果たしてきたのか論じる。 ISBN 978-4-86110-806-8 ¥3273

戦後日本の「コミュニティ・シアター」特別でない「私たち」の演劇 須川渡 (福岡女学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-764-1 ¥4500

インド ムガル皇帝の肖像—ムガル細密画の光り輝く世界 宮原辰夫 (文政大学教授) ISBN 978-4-86110-771-9 ¥3500

ナチスと闘った劇場—精神的国土防衛とチューリヒ劇場の「伝説」 葉柳和則 (長崎大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-719-1 ¥4200

一九四〇年代素人演劇史論—表現活動の教育的意義 小川史 (横浜創英大学教授) ISBN 978-4-86110-717-7 ¥5000

イタリヤ・宝塚・2.5次元—多彩な演劇世界をめぐって 鈴木国男 (共立女子大学教授) ISBN 978-4-86110-737-5 ¥2900

半分満たされたグラス ジャズとシグナマイニング 椿清文 (津田塾大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-741-2 ¥2400

27 段階的激化

大河

しりあがり寿 mini



両軍は国境をへだててにらみ合っていた。「殿、敵がこちらを見て笑っております。くく…わが軍を愚弄するか！」「ええい！挑発にのつてはならん。お互いがお互いを挑発し事態が激化し本隊同士がぶつかれば両軍とも大きな被害を受ける。」

「確かに左様ですが…殿！今度は敵がこちらにアカンペーを！」「落ち着くのじゃ、こちらは尻でも叩いてやれ」「兵はいっせいに敵に尻を向けべんべんと叩いた。」

「殿！こちらが尻を叩いたら、奴らは半分尻を見せて叩いてまいりました！」「半分とな、やつらもむやみにエスカレーターは避けたいのだから。よし、こちらは四分の三ほど尻をみせてやれ」

江戸の黙阿弥—善人を描く 理忠美沙 (お茶の水女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-706-1 ¥4500

転生する物語—アタプティションの愉しみ 渡辺諒 (早稲田大学教授) ISBN 978-4-86110-685-9 ¥2500

見る・見せる—中国四川・福建の表演にみる「演じる」こと・人・空間 細井尚子 (立教大学教授) ISBN 978-4-86110-671-2 ¥4500

本の縁側 矢萩多聞 (装丁家・画家) ISBN 978-4-86110-653-8 ¥2800

明治・大正 東京の歌舞伎興行—その「継続」の軌跡 寺田詩麻 (龍谷大学教授) ISBN 978-4-86110-631-6 ¥8000

ホベルト・ブルー・マルクスの庭にて ジャック・レナール 監修/荒井芳廣 (大妻女子大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-594-4 ¥3200

躍動—横浜の若き表現者たち 細見葉介 ISBN 978-4-86110-640-8 ¥1800

浅草2011-2016—六区ブロードウェイ 日本人の肖像 初沢克利 (写真家) ISBN 978-4-86110-547-0 ¥7000

石巻片影 三浦衛 (春風社代表) 著/橋本照嵩 (写真家) 写真 ISBN 978-4-86110-530-2 ¥2500

石巻2011.3.27—2014.5.29 橋本照嵩 (写真家) ISBN 978-4-86110-414-5 ¥4500

【新版】北上川 橋本照嵩 (写真家) ISBN 978-4-86110-441-1 ¥3500

表象の京都—日本映画史における観光都市のイメージ 須川まり (流通経済大学准教授) ISBN 978-4-86110-537-1 ¥3000

「社会」といつの劇場—演劇に生きて 岡田正子 (演出家・翻訳家) ISBN 978-4-86110-551-7 ¥2100

母のアルバム 伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 978-4-86110-523-4 ¥1800

父のアルバム 伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 978-4-86110-467-1 ¥1800

利根川を往く 瑞絨 (写真家) ISBN 978-4-86110-503-6 ¥4800

長唄の世界へようこそ—読んで味わう、長唄入門 細谷朋子 (研究者) ISBN 978-4-86110-400-8 三刷 ¥3400

クワシム解体 小関与四郎 (写真家) ISBN 978-4-86110-261-5 ¥15000

世界写真紀行—美しい自然と文化を訪ねて (海外編・国内編) 渋谷谷典一 ISBN 978-4-86110-409-1 ¥3500

ドアの映画史—細部からの見方、技法のリネラシー 吉田眸 (元京都産業大学教授) ISBN 978-4-86110-264-6 ¥1800

邦訳「ガリヴァー旅行記」書誌目録 松菱多津男 ISBN 978-4-86110-276-9 電子版のみ ¥4600

OTHER VOICES 東大全共闘・68—70 平沢豊 ISBN 4-86110-026-7 ¥2800

東洋英和女学院大学 社会科学研究叢書

メディアとしてのミュージアム 町田小織 (東洋英和女学院大学講師) 編 ISBN 978-4-86110-739-9 ¥2500

国際協力の行方—経済・開発・オルタナティブ 吉川健治 (東洋英和女学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-646-0 ¥2500

ハワハラ・トラウマに対する短期心理療法 岡本浩一・長谷川明弘 編 ISBN 978-4-86110-639-2 ¥2500

世界のメディア—グローバル時代における多様性 小寺敦之 (東洋英和女学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-591-3 ¥2500

アジアの国際関係—移行期の地域秩序 福田保 (東洋英和女学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-590-6 ¥2500

新時代のやさしいトラウマ治療 岡本浩一・角藤比呂志 編 ISBN 978-4-86110-545-6 ¥2500

EU統合を読む—現代ヨーロッパを理解するための基礎 小久保康之 編 ISBN 978-4-86110-483-1 ¥2500

総記・辞典・事典



都市科学事典 横浜国立大学都市科学部 編 ISBN 978-4-86110-734-4 ¥25000

「ミニニイ事典 伊藤守・小泉秀樹・二本松政之・似田貝香門・橋本和孝・長谷部弘・日高昭夫・吉原直樹 編 ISBN 978-4-86110-538-8 ¥25000

発信型 日本人が使いこなせないうフランス基本単語小辞典 久松健一・Michel Gonçalves 編 ISBN 978-4-86110-563-0 ¥2500

フランス語名詞・動詞連語辞典 石川三千夫 (桜美林大学名誉教授) 編 ISBN 978-4-86110-536-4 ¥3500

スペイン語語源辞典 太田強正 (神奈川大学名誉教授) 編 ISBN 978-4-86110-332-2 電子版のみ ¥5200

異文化「コミュニケーション」事典 石井敏・久米昭元他 編 ISBN 978-4-86110-333-9 電子版のみ ¥7600

ニューシニアランド百科事典 フォーシニアランド学会 編 ISBN 978-4-86110-111-3 ¥9333

Dante神曲原典読解語源辞典《地獄》《煉獄》《天国》 福島治 ISBN 4-921146-77-2 / 4-921146-78-0 / 4-921146-79-9 各巻 ¥46000

現代日本語7000語源辞典 橋本勝 (大阪外国語大学名誉教授) / E・フレリブジャン 編 ISBN 4-921146-33-0 ¥15000

ネット空間を変えるモバイル社会 東洋英和女学院大学メディア・コミュニケーション研究 所 編 ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500

グローバリゼーションとリスク社会 岡本浩一・パトリシア・スイッパル 編 ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500



エンパワメント・ギャップ 主権者になる資格のない子などいない メイラ・レウインソン 著

渡部竜也 (東京学芸大学准教授・桑原敏典 (岡山大学教授) 訳)
二〇〇〇年代以降のアメリカの学校教育政策が引き起こした逆説的な問題をめぐり、市民権行使の機会・能力における子どもの格差を事例から分析。貧困層やマイノリティといった自らを取り巻く構造的な不平等の是正を時に必要とする子どもほど、政治的社会的な知識や態度を持たないという皮肉な事態を告発し、民主的な社会参加や意思決定への手立てを培うための、多様な経験や文化による差異をふまえた教育の役割を探る。
A5判上製・四二二頁 定価(4500円+税)
ISBN 978-4-86110-819-8

インクルーシブ教育のかたち 都道府県ごとの特別支援教育の違いから 柴垣登 (岩手大学教授)

日本の特別支援教育の現状を、制度・政策の動向、地域ごとのその対象率などをもとに、通常教育との関連から詳らかに分析。当事者である障害のある子どもとその保護者の意向や選択・決定権を尊重しつつ、どのように教育機会の格差を是正し実際に保障すべきかを検討することで、特別支援学校・学級といった学びの場を個別に設けるのみでない、障害者と立岩真也氏による解題も併録。
A5判並製・二七二頁 定価(3600円+税)
ISBN 978-4-86110-821-1



省察的実践 日本語教師の省察的実践 香月裕介 (神戸学院大学准教授)

日本語教師の省察的実践―語りの現象学的分析とその記述を読む経験
専門知・実践知のありようを教師自身の語る／読むという経験から考察し、教師の専門性や読み手の省察および自己理解への新たな観点を探る。
ISBN 978-4-86110-760-3 ¥4500

学校と生活を接続する―ドイツの改革教育的な授業の理論と実践
田中怜 (倉英大大学講師) 一九七〇年代以降ドイツの学校教育改革を考究。教育の営為における学習／教授の両義的な発想を捉え、多視点を活かす差異に基づく授業の構想と方法を提言する。
ISBN 978-4-86110-766-5 ¥4200

言語教師教育論―境界なき時代の「知る・分析する・認識する・為す・見る」教師
B. クマラヴァデーヴェル 著／南浦涼介 (東京学芸大学准教授・瀬尾匡輝 (茨城大学准教授・田嶋美砂子 (茨城大学准教授) 外国語・第二言語の教師教育に向けた包括的なモデルの根拠と方向性を再考する。
ISBN 978-4-86110-759-7 ¥4000

学校づくりの概念・思想・戦略―教育における直接責任性原理の探究
石井拓児 (名古屋大学教授)
戦後から現在に至る学校づくり概念の成立過程を法制度・課程計画・実践運動の面から考察し、その自主性の内実と意義を論じる。
ISBN 978-4-86110-758-0 ¥4000

学校づくりの概念・思想・戦略―教育における直接責任性原理の探究
石井拓児 (名古屋大学教授)
戦後から現在に至る学校づくり概念の成立過程を法制度・課程計画・実践運動の面から考察し、その自主性の内実と意義を論じる。
ISBN 978-4-86110-758-0 ¥4000

レヴィナスと教育学―他者をめぐる教育学の語りを問い直す
安喰勇平 (神戸市外国語大学講師) レヴィナスの言語論や責任概念を検討することで、教育という営為における倫理的含意を顧み、自己関係の理解への新たな言語的空間・表現を開拓する。
ISBN 978-4-86110-765-8 ¥4000

野村芳兵衛の教育思想―往相・還相としての「生命信順」と「仲間作り」
富澤美千子 (横浜美術大学教授) 明治後期から昭和期の教育者・野村芳兵衛による実践と構想の可能性を考察。自他の相即的・同時的な救済の倫理に基づく教育の意義を探究する。
ISBN 978-4-86110-750-4 ¥3630

外国につながる児童生徒の教育と社会的包摂―日本とニュージーランドの比較にもとづく学校教育の制度イノベーション
柿原豪 (聖マリアンナ中高等学校教諭) 移民や難民などの外国につながる児童生徒への語学支援の実態を検討し、制度と実践活動を架橋する教育の方途を問う。
ISBN 978-4-86110-751-1 ¥3600

教育のリーダーシップとハンナ・アーレント
ヘレン・M・ガンター 著／末松裕基・生澤繁樹・橋本憲幸 訳
ISBN 978-4-86110-704-7 ¥3000

共同体による自己形成―教育と政治のフラグ・マティズム
生澤繁樹 (名古屋大学准教授)
ISBN 978-4-86110-641-5 ¥5500

阿部公彦 英文学に デコピン

16 上島建吉先生のヘンリー・ジェームズ

今から思えば贅沢な話だが、私が教養課程のときに受講した文学関係の授業は、先生一人に対して学生が二人か三人ということが多かった。そうした授業は嫌でも記憶に残る。上島建吉先生はロマン派詩の専門家だが、その年は演習でヘンリー・ジェームズを扱っていた。当時、国書刊行会から作品集が出て、上島先生も訳を分担していたのでそれも関係していたのだろう。
出席者は当時学部2年生だった私と、もう一人博士課程の院生だけである。時計台が聳える一号館はコの字型の造りで、教室はその右側のウイングにあった。今も変わらず立ちこめる独特な「一号館臭」が当時からむんむんと臭っていた。
上島先生は授業の冒頭で「宣言」をするのが上手な先生だった。二人だけの受講者を前にして先生はきっぱり「ジェームズの英語の難解さは、漱石も降参でした。××のようなものです」と言い放った。この肝心の「××」のところを忘れてしまったので、仮に補っておく。「こんがらかったヘッドフォンのコード」or「朝起きた途端に細部を忘れてしまった

夢の中の出来事」or「途中からCCや横入りが増えて、やり取りの流れが混沌となったGメールのスレッド」。
先生は授業のとき、一頁に一つ必ずあるこの「ヘッドフォンコードの捻転」部分を取り上げ、「どうだ。わかるか」と挑んでくる。私はほぼ全滅だった。博士課程の院生は、さすが博士課程の院生だけあって、3回に2回くらいはコードをほぐしてみた。
授業が終わり一号館臭から解放されると、外には銀杏並木臭が漂っていた。ある日の帰り道、院生の女性に「さすがあなたは偉大ですね」と私が言うと、「ええ、あなたよりはね」とはさすがに彼女は言わなかったと思うが、正確な言葉を忘れてしまったのでここでも補っておく。「ふふ。あの面倒くささがたまらなく好きになるときがあるわよ」
実は彼女の専門はジェームズだったのだ。そう、あの授業は彼女のためにやっていたようなものなのだ。この部分の記憶だけは確か(なはず)である。そして彼女の予言は見事に当たった。
(英文学者)

「共生社会」と教育―南アフリカ共和国の学校における取り組みが示す可能性
坂口真康 (兵庫教育大学講師) ISBN 978-4-86110-726-9 ¥5400

主権者教育論―学校カリキュラム・学力・教師
渡部竜也 (東京学芸大学准教授)
ISBN 978-4-86110-648-4 二刷 ¥4500

「エンゲルスに基づく教育の関心を探る―教育学における規範と事実をめぐって」
杉田浩崇・熊井将太編
ISBN 978-4-86110-688-3 電子版のみ ¥3700

The Developmental Process of Japanese Elementary School Teachers Associated with Teaching English while Engaged in Lesson Study
上原明子
ISBN 978-4-86110-634-7 ¥5900

教育と他者―非対称性の倫理に向けて
橋本憲幸 (山梨県立大学准教授)
ISBN 978-4-86110-614-9 電子版のみ ¥4000

大学英語教育の質的転換―「学ぶ」場から「使う」場へ
佐藤響子・Carl McGary・加藤千博編
ISBN 978-4-86110-618-7 ¥2300

正しい学び／学力・質の高い知をめぐると学校再建
フレッド・M・ニューマン 著／渡部竜也・堀田諭 訳
ISBN 978-4-86110-525-8 電子版のみ ¥6200

言語・心理



言語景観から考える日本の言語環境

方言・多言語・日本語教育
タニエル・ロンク (東京都立大学教授)・斎藤敬太 (津田塾大学非常勤講師) 著

看板職、店のメニュー……。各地でのフィールドワークを通して「言語景観」を撮影・収集し、そこにみられる敬語、方言、複言語等の様相から、多文化共生が進む日本の言語環境を鳥瞰する。

A5判上製・四〇頁 定価(4500円+税)
ISBN 978-4-86110-793-1

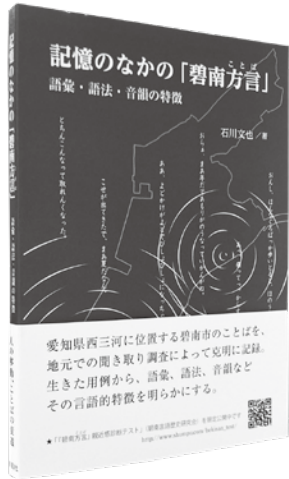
記憶のなかの

「碧南方言」

石川文也 (金教大教授)

愛知県西三河に位置する碧南市のこぼれを、地元での聞き取り調査によって克明に記録。生きた用例からその言語的特徴を明らかにする。

A5判並製・二二六頁 定価(1800円+税)
ISBN 978-4-86110-807-5



ともに生きるために—ウェルフェア・リンクタイプ
ステイクスと生態学の視点からみることは
教育 尾辻恵美(シドニー工科大学准教授)・熊谷由理(スミス大学上級講師)・佐藤慎司(フロンティア
大学主任講師)編 「言語生態学」の視座から考
える、社会をより豊かに(welfare)する「こ
とばの教育」 ISBN 978-4-86110-774-0 ¥3900

心理臨床 セラピストの身体と共感—ダンス
／ムーブメントとフェルトセンスの活用
山田美穂(お茶の水女子大学准教授)

人と人との間の対話が静かな感動を招ぶ。身
体と身体のかかりを通じ、心理臨床の実践
と豊かな理解に向けた真摯な問い。
ISBN 978-4-86110-770-2 ¥4500

小学校英語に原典文学を—絵本・ナーサリーラ
イム・ストーリーテリングの世界に遊ぶ吉田真
理子佐藤佳子・執行智子 ISBN 978-4-86110-733-7 ¥2000

小学校英語への専門的アプローチ—こぼれの世
界を拓く 綾部保志(立教池袋中学校・高等学校
教諭)編 ISBN 978-4-86110-647-7 ¥2000

ウエールズ語の歴史
ジャネット・デイヴィス著/小池剛史(大東文
化大学准教授)訳 ISBN 978-4-86110-608-8 ¥2700

視覚スキーマを用いた意味拡張動機づけの分析
栗田奈美(東京女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-564-7 ¥5500

英語と開発—グローバル化時代の言語政策と
教育 F・サージェント、E・J・アーリング
編/松原好次訳 ISBN 978-4-86110-471-8 ¥3500

英語学—現代英語をより深く知るために
菊池清明(元立教大学教授)編 ISBN 978-4-86110-513-5 ¥1400

ベトナム語母語話者のための日本語教育
松田真希子(金沢大学教授) ISBN 978-4-86110-491-6 電子版のみ ¥3600

第二言語学習と個別性 津田塾大学言語文化
研究所言語学習の個別性研究グループ編
ISBN 978-4-86110-065-9 ¥1600

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist
Thesis II 鈴木憲夫(元神戸親和女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-300-1 ¥6667

シモンと「国語」辞典の誕生—十八世紀
巨人の名言・金書 早川勇(愛知大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-399-5 ¥2500

ベルベル語とティフィナク文字の基礎—タリー
フィート語(Tarifit)入門 石原忠佳
ISBN 978-4-86110-394-0 電子版のみ ¥4286

啓蒙思想下のシモン辞書—知の集成を目
指して 早川勇(愛知大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-380-3 ¥5000

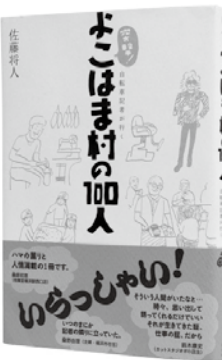
はじめての論文—語用論的な視点で調査・研
究する 田中典子(清泉女子大学教授)
ISBN 4-86110-349-0 二刷 ¥1800

プラグマティクス・ワークシユップ—身のまわ
りの言葉を語用論的に見る 田中典子(清泉
女子大学教授) ISBN 4-86110-073-9 五刷 ¥1800

環境心理学—環境デザインへのベースヘクテイ
ブ 槇原(実践女子大学教授)
ISBN 4-86110-010-0 二刷 電子版のみ ¥2286

Japanese English: A Descriptive Grammar
Kotawole Waziri Olagbojega(都留文科大学教授)
ISBN 978-4-86110-680-4 ¥6900

観光・環境・自然



突撃!よこはま村の100人—自転車記者
が行く 佐藤将人(元神奈川新聞記者)
ISBN 978-4-86110-316-2 ¥1500

瀬戸内、鳥獣の旅—風景の奥を読む
伊藤松雄(四国学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800

おはあちゃん!豚となって木に登る
外川洋子
ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500

富士山学への招待—NPOが富士山と地域を
救う 渡辺豊博(NPO法人グラウンドワーク三島)
ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500

失敗しないNPO—クラウドワーク三島の20
年とイギリスに学ぶ 渡辺豊博(NPO法人クラウ
ドワーク三島)編著 ISBN 978-4-86110-353-7 ¥1500

世界初 市民性教育の国家規模カリキュラム
渡部竜也編訳 ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722

コモンズのための歴史教育—社会文化的
アプローチレヴュー、パートン 著/渡部
竜也他訳 ISBN 978-4-86110-445-9 一刷 ¥6000

言葉の道—障書の重い人たちの事例研究集
遠藤司(駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-573-9 ¥2800

教育方法改革の理論
助川晃洋(国士舘大学教授) ISBN 978-4-86110-578-4 ¥2000

子ども(内面)とは何か—言語ゲームから見
た他者理解とコミュニケーション 杉田浩崇(広
島大学准教授) ISBN 978-4-86110-556-2 ¥3700

絵本から「子ども福祉」を考える
青木文美(愛知淑徳大学教授)編
ISBN 978-4-86110-514-2 ¥3400

居場所—生の回復と充溢のトポス
萩原建次郎(駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-566-1 電子版のみ ¥2315

留学生の見た漢字の世界—漢字学習への創造
的アプローチ 林さと子・関麻由美・齋藤伸
子編著 ISBN 978-4-86110-568-5 ¥1852

日本統治下台湾の教育認識—書房・公学校を
中心に 呉宏明(京都精華大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-505-0 一刷 ¥3500

キリスト教人格教育論—個人の尊厳を見つめ
て 吉岡良昌(東洋英和女学院大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-417-6 ¥2300

いのちを育む教育学 吉岡良昌(東洋英和女学
院大学名誉教授)・大川洋(国際基督教大学教授)
ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200

アメリカ教育福祉社会史序説—ビティンゲ
・ティーチャーとその時代 倉石一郎(京都大学
教授) ISBN 978-4-86110-416-9 一刷 ¥3000

物語が始まるとき—共創教育の現場から
青木幸子(昭和女子大学特任准教授)
ISBN 978-4-86110-415-2 ¥1800

労働声・山崎高哉共編
日中教育対話Ⅰ ISBN 978-4-86110-159-5 ¥3200
日中教育対話Ⅱ ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800
日中教育対話Ⅲ ISBN 978-4-86110-248-6 ¥3200

幼児キャンプ—雪の体験
山梨幼児野外教育研究会 監修
ISBN 4-921146-40-3 ¥1905

渉をおこなってきた。その間、環境省は
地権者会の用地補償をめぐる提案にたい
して、関連する法律や条例の解釈をその
都度変更し、けっして(地権者会に)言質
を与えないという姿勢をとってきた。M
さんは、こうした姿勢は他のケースでも
よくみられ、いわば想定範囲内だという。
Mさんにとってより深刻な問題は、社
会じたいが東日本大震災への関心をなく
し、それとともに中間貯蔵施設そのもの
が忘却の彼方に追いやられようとして
いることである。そのため、地権者会は中
間貯蔵施設が「ひとつ」ではなく「じ
ぶんごと」であることを認識してもらお
うと、組織じたいを外に開かれたものに
するとともに、自分たちの主張によりア
クセスしやすいような環境の整備につ
とめている、という。しかしこのところ、
そうした「開放性」と「透明性」の確保
にも限界があると感じるようになってい
る。何よりも外にたいして「じぶんご
と」をもとめながら、自分たちの要求を
再帰的に問い直すことが欠落してしま
うと、「じぶんごとの罌」に陥ってしまう
というのだ。Mさんたちは、いま、自分
たちの要求が自分たち以外の人にもエッ
センシャルなものであることをどのよう
に伝えるかに、ひどく苦慮している。し
かしそのことなしには、つまり外の人と
の「共通のまなざし」を確保する以外に
は組織の存続はありえない、と考えてい
る。ともあれ、外に向かって共有の場
(コモンズ)をどのように形成するかが切
実な課題となっているのだ。(社会学者)



7 / 「じぶんごと」の罌

ある雑誌の企画をめぐって、30年中間
貯蔵施設地権者会のMさんと対談をおこ
なった。地権者会は大熊町、双葉町への
中間貯蔵施設の受け入れが決定した段階
で国が表明した「30年後に県外の最終処
分場に(廃棄物を)搬出する」という地権
者との約束の履行をもとめて結成された
ものである。Mさんがいうには、中間貯
蔵施設の最終処分場化は既成事実のもの
となっており、そのための用地取得もす
ずんでいる。それにたいして、地権者会
は、当初の約束の履行をもとめて、これ
までに40数回にわたって環境省と団体交

社会・歴史・政治



憲法上のポピュリズム宣言

「ここでは人々が支配する」

リチャード・D・バーカー著

池端忠司(神奈川県立大学) 訳

トーマス・マンの小説『マリオと魔術師』を素材にして、一般民衆の政治的エネルギーについての二つの感性「反ポピュリズムの感性」と「ポピュリズムの感性」を分析し、両者に代わる新たなポピュリズムの感性を再定位。大衆への蔑視とエリート主義による「立憲主義」を批判し、憲法の議論のあり方を問い直す。四六判並製・一八六頁 定価(3500円+税) ISBN 978-4-86110-815-0



「よりのころ」の形成史

アルゼンチンの沖縄移民社会と

在亜沖縄県人連合会の設立

月野楓子(沖縄国際大学専任講師)

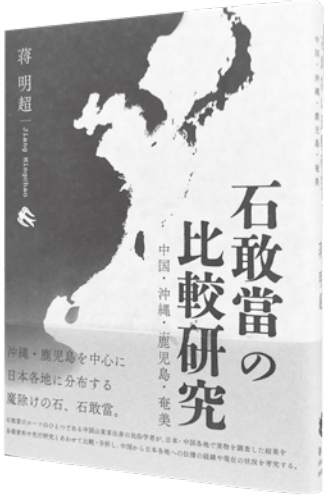
戦後に県人連合会が結成された意義に目を配りながら、アルゼンチン沖縄移民社会での移民初期からの生活や社会団体形成の諸相を描く。A5判上製・三三六頁 定価(4300円+税) ISBN 978-4-86110-830-3

石敢當の比較研究

中国・沖縄・鹿児島・奄美

蔣明超(泰山学院泰山研究院)

沖縄・鹿児島を中心に日本各地に分布する魔除けの石、石敢當。資料・実物調査を基に、中国からの伝播の経緯や現在の状況を探究する。A5判上製・三三〇頁 定価(4200円+税) ISBN 978-4-86110-753-5

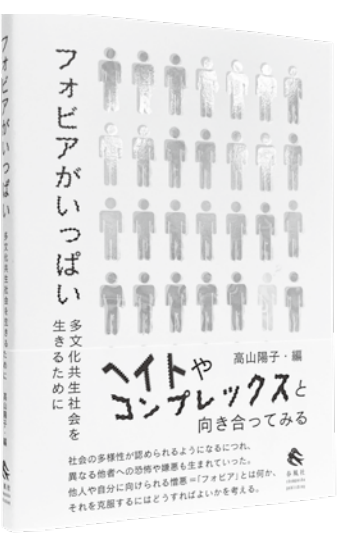


フォビアがいっぱい

多文化共生社会を生きたるために

高山陽子(亜細亜大学教授) 編

特定の人々に対する嫌悪を指すフォビア。国籍やジェンダーなどに関わるフォビアとどう向き合い克服できるのかを考えるための22章。A5判並製・三二八頁 定価(2700円+税) ISBN 978-4-86110-831-0



ポストモダンの処方箋

30『近代日本の終わり』としての 東京五輪2020 白井聡

かねてから事情通のあいだでは存在が指摘されていた東京五輪汚職への捜査が進んでいる。今後どこまで全容が明らかになるのか現時点では判定しがたいが、汚職の本丸は神宮外苑の再開発の試みにあると目されている。

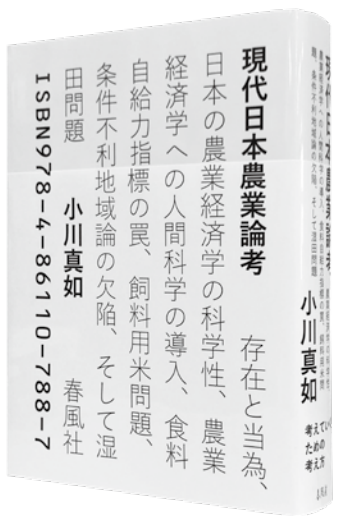
これが真実だとすると、日本の近代は終わるのだなとつくづく実感させられる。ザハ・ハイドの新旧立競技場の案が、巨大にすぎることがわかっていたにもかかわらず採用されたのは、神宮外苑付近の厳しい容積率制限を緩和させるためだったのではないかとすれば、この目的が叶えられた時点でザハのプランは用済みとなる。こうした事情でザハ案が放棄されたのだとすれば、あたかも憤死するかのようにはザハが急死したのも得心がいく。

言うまでもなく、神宮外苑は明治大帝の偉業を称え、その記憶を永久にとどめることを目指して整備されたものだった。そうした歴史的起源を持つ空間を、不動産開発をめぐるむき出しの欲望のために、街路樹を大量に切り倒し、高層ビルを林立させ、風格ある景観を台無しにして破壊するのではないかと危惧されているわけである。

個人的な思いを言えば、旧国立競技場が改修による再利用も可能だったにもかかわらず、取り壊されたことが、大きなショックだった。旧国立競技場については、数々の名勝負、名場面の記憶があるからだ。サッカーに限っても、93年Jリーグの開幕戦、98年W杯予選日本対韓国戦の山口素弘のルーブシュート、98年高校選手権決勝の本山雅志(東福岡)と中田浩二(帝京)の雪中の決戦、85年トヨタカップでのミシェル・プラティニの幻のスーパーゴール…。

これらの記憶の場所は、神宮外苑地域の容積率を緩和し、再開発利権をつくり出すために、永久に失われた。小さくは個人の記憶、大きくは国民的記憶などどうでもよく、ただ目の利益のみを求める傾向の極大化がここにはある。究極的には、それは歴史の消去を意味するだろう。記憶を持つ歴史的存在としての人間というものは、いまや資本主義の発展にとって邪魔者なのだ。ポストモダニズムとは結局のところ新自由主義文明の表れの一つでしかないのであれば、それは歴史の自由な引用などではなく、歴史の蒸発に帰結するものにほかならない。

(政治学者)



現代日本農業論考

存在と当為

小川真如

日本の農業経済学の科学性、農業経済学への人間科学の導入、食料自給力指標の異、飼料用米問題、条件不利地域論の欠陥、そして湿田問題 小川真如 春風社 ISBN 978-4-86110-788-7

現代日本農業論考

存在と当為、日本の農業経済学の科学性、農業経済学への人間科学の導入、食料自給力指標の異、飼料用米問題、条件不利地域論の欠陥、そして湿田問題

小川真如(一般財団法人農政調査委員会専門調査員、東京農工大学他非常勤講師)

日本の農業経済学に対して「すべき」という当為を扱うことを可能とする考え方として、現象学に依拠した人間科学の導入を提案。A5判上製・五七二頁 定価(7200円+税) ISBN 978-4-86110-788-7

『リスト全集』の出版

諸田實(神奈川県立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-787-0 ¥3500

異色の経済学者 フリードリッヒ・リスト 諸田實(神奈川県立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-576-0 ¥2700

ファッションとテクノロジー 英国サイクリア朝ミドルクラスの衣生活の姿 長谷部寿女士(日本女子大学非常勤講師) ISBN 978-4-86110-762-7 ¥4500

アートとコミュニティ 横浜・黄金町の実践から 山野真悟(美術作家・鈴木伸治(横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-752-8 ¥3000

女子サッカー選手のエスノグラフィー 不安定な競技実践形態を生きたる 申恩真(北星学園大学専任講師) ISBN 978-4-86110-795-5 ¥4000

聖ヤコブ崇敬とサンティアゴ巡礼 中世スペインから植民地期メキシコへの歴史的つながりを求めて 田辺加恵(立命館大学教授)・大原志麻(静岡大学教授)・井上幸孝(専修大学教授) ISBN 978-4-86110-785-6 ¥4000

聖ヤコブ崇敬はいかに生成され各地へと伝わったのか、時代や地域を超えた流れを示す。 ISBN 978-4-86110-794-8 ¥4500

分かちあう経験・守りあう尊厳ーラスキン・カレッジの一九七〇年代における労働者教育 富永貴公(都留文科大学准教授) ISBN 978-4-86110-794-8 ¥4500

英国の労働者教育機関ラスキン・カレッジにおける歴史学習と対話を通じた、労働者自身の手による尊厳獲得の過程を読み解く。 ISBN 978-4-86110-794-8 ¥4500

女子サッカー選手のエスノグラフィー 不安定な競技実践形態を生きたる 申恩真(北星学園大学専任講師) ISBN 978-4-86110-795-5 ¥4000

韓国経済史 先史・古代から併合まで 李榮薫著/須川英徳・加藤裕人・大沼巧訳 ISBN 978-4-86110-782-5 ¥7000

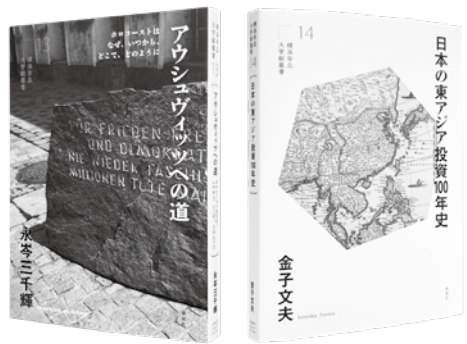
都市を観るー社会地図で可視化した都市社会の構造 浅川達人(早稲田大学教授) ISBN 978-4-86110-791-7 ¥2700

21世紀型スキルとしての情報社会学ーVUC Aワールドを生きたる人たちのために 天野徹(明星大学教授) ISBN 978-4-86110-781-8 ¥2800

講義 政治学入門ーデモクラシーと国家を考える 宮原辰夫(文政大学教授) ISBN 978-4-86110-744-3 ¥2200

アジアの海を渡る人々ー一六・一七世紀の渡海者 上田信(立教大学教授)・中島楽章(九州大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-729-0 ¥5000

文化的に生きる権利ー文化政策研究から見た憲法第二十五条の可能性 中村美帆(青山学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-724-5 ¥4500



立教大学人文叢書

日本の東アジア投資100年史
金子文夫 (横浜市立大学名誉教授)
一九一〇年代から二〇一〇年代にかけて日本が東アジアに対して行ってきた投資活動について考察。一〇〇年間の日本―東アジア経済関係の変遷を描き出す。
ISBN 978-4-86110-804-4 ¥3000

- 1 人文資料学の現在―浦野聡他 編著 ISBN 4-86110-063-1 ¥2200
2 文学の基礎(レクシス) 後藤和彦編著 ISBN 4-86110-087-9 ¥2200
3 肖像と個性 藤巻明他 編著 ISBN 978-4-86110-138-0 ¥2200
4 人文資料学の現在II 菅谷憲興 編 ISBN 978-4-86110-163-2 ¥2200
5 書簡を読む 桑瀬章一郎 編 ISBN 978-4-86110-194-6 ¥2200

古代文字史料の中心性と周縁性 立教大学東アジア地域環境問題研究所／深津行徳・浦野聡 編著 ISBN 4-86110-067-4 ¥3500

イエス運動・マルコ・哲学 三上真司 (横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-679-8 ¥3535

教育公務員特例法制定過程の研究―占領下における教員身分保障制度改革構想 高橋寛人 (石巻専修大学教授) ISBN 978-4-86110-650-7 ¥3000

読んで愉しむイギリス文学史入門 白井義昭 (横浜市立大学名誉教授、立正大学教授) ISBN 978-4-86110-372-8 六刷 ¥1500

現代民俗学考―郷土研究から世界常民学へ 佐野賢治 (神奈川県立大学名誉教授) 編著 ISBN 978-4-86110-708-5 ¥13000

制服ガールの総力戦―イギリスの「女の子」の戦時貢献 杉村使乃 (共立女子大学教授) ISBN 978-4-86110-603-3 ¥3200

社会的システム理論の軌跡―ソシオサイバネティクスとニコラス・ルーマン 赤堀二郎 (東京女子大学教授) ISBN 978-4-86110-720-7 ¥3600

現場に立つから、おもしろい―世界をつなぐ、ひと・モノ・しくみ 江戸川大学現代社会学科 監修 ISBN 978-4-86110-740-5 ¥1800

ナショナリズムの空間―イスラエルにおける死者の記念と表象 今野泰三 (中央大学准教授) ISBN 978-4-86110-722-1 ¥3600

カランテル駅―ブラジル最大の刑務所における囚人たちの生態 ドラウジオ・ヴァレーラ 著／伊藤秋仁 訳 ISBN 978-4-86110-695-8 ¥3600

現代中東における宗教・メディア・ネットワーク―イスラームのゆくえ 千葉悠志・安田慎 編 ISBN 978-4-86110-728-3 ¥2800

先祖祭祀と墓制の近代―創られた国民的習俗 問芝志保 (東北大学准教授) ISBN 978-4-86110-692-7 電子版のみ ¥5000

中央ヨーロッパ―歴史と文学 桂元嗣 (武蔵大学教授) ISBN 978-4-86110-701-6 ¥2800

多文化チームと日本人リーダーの動的思考プロセス―グラウンテッド・セオリーからのアプローチ 石黒武人 ISBN 978-4-86110-687-3 ¥3600

合法性と正当性 デイヴィッド・ダイゼンハウス著／池端忠司 (神奈川県立大学准教授) 訳 ISBN 978-4-86110-686-6 ¥4100

東アジアの弾圧・抑圧を考える―19世紀から現代まで 日本・中国・台湾 岩下哲典 (東洋大学教授) 他 ISBN 978-4-86110-669-9 ¥4000

開発と文化における民衆参加―タンザニアの内発的発展の条件 阪本公美子 (宇都宮大学教授) ISBN 978-4-86110-676-7 ¥4500

江戸の名主 馬込勸解由 高山慶子 (宇都宮大学准教授) ISBN 978-4-86110-666-8 ¥4100

On the Road to the East Asian Community 奥田孝晴 (文教大学教授) 他 編 ISBN 978-4-86110-655-2 ¥6000

反逆者たちのアメリカ文化史―未来への思考 堀真理子 (青山学院大学教授) ISBN 978-4-86110-659-0 ¥2700

統計は力なり―エルンスト・エンゲルの希望の学 太田和宏 (北海学園大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-656-9 ¥3700

ムガル建築の魅力―皇帝たちが築いた地上の楽園 宮原辰夫 (文教大学教授) ISBN 978-4-86110-660-6 ¥3100

基礎的自治体と町内会自治会―行政協力制度の歴史・現状・行方 日高昭夫 (山梨学院大学特任教授) ISBN 978-4-86110-611-8 電子版のみ ¥4200

寛容な社会―アメリカ合衆国における言論の自由と過激派の言論 リー・C・ボリンジャー 著／池端忠司 訳 ISBN 978-4-86110-593-7 ¥3900

食から描くインド―近現代の社会変容とアイデンティティ 井坂理穂 (東京大学教授)・山根聡 (大阪大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-633-0 二刷 ¥3700

難民支援―ドイツメディアが伝えたこと 松原好次 (元電気通信大学教授)・内藤裕子 (翻訳者) ISBN 978-4-86110-607-1 ¥2700

社会学批判と現代―早瀬利雄の人と学問 内藤辰美 (山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-561-6 ¥3900

エネルギーと地方財政の社会学―旧産炭地と原子力関連自治体の分析 湯浅陽一 (関東学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-586-9 ¥3700

スイスの謎―経済的空間的秩序 加藤幸治 (国士舘大学教授) ISBN 978-4-86110-585-2 ホンコン版のみ ¥2700

東アジアの秩序を考える―歴史・経済・言語 岩下哲典 (東洋大学教授) 他 ISBN 978-4-86110-574-6 ¥3700

北の商都「小樽」の近代―ある都市の伝記 内藤辰美 (山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ¥3900

都市の遺産とまちづくり―アジア大都市の歴史保全 鈴木伸治 (横浜市立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-560-9 ¥3200

新版学問の暴力―アイヌ墓地はなぜあはれなか 植木哲也 (北洋大学客員教授) ISBN 978-4-86110-531-9 ¥2400

医療制度改革の比較政治 石垣千秋 (山梨県立大学准教授) ISBN 978-4-86110-534-0 ¥5400

素描・杉原千畝 小谷野裕子 (エッセイスト) ISBN 978-4-86110-528-9 一刷 ¥1800

天馬山―北朝鮮からの引揚げ者の語り 浅井亜紀子 (桜美林大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-519-7 ¥2200

先生、NPOって儲かりますか?―若者たちが地元で賢く生きる方法 渡辺豊博 (NPO法人マンモス・ワン・チーム) ISBN 978-4-86110-480-0 ¥1389

婚姻連帯論と社会学―レヴィニストロース、デュルケムをめぐって 門口充徳 (成蹊大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-423-7 ¥4900

難の誕生―難節供に込められた対の豊穡 皆川美恵子 (十文字学園女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-439-8 ¥3600

スイスの歴史ガイド グレゴワール・ナツペイ 著／藤野成爾 訳 ISBN 978-4-86110-413-8 三刷 ¥1800

不思議フランス 魅惑の謎 藤野敦子 (京都産業大学教授) ISBN 978-4-86110-401-5 二刷 ¥1800

グローバリゼーション、市民権、都市―ヘクシスの社会学 岩永真治 (明治学院大学教授) ISBN 978-4-86110-140-3 一刷 ¥3333

物権法概説 小泉健 (ノースアジア大学学長) ISBN 978-4-86110-221-9 ¥2800

エスノメトリロジーの可能性 椎野信雄 (文教大学教授) ISBN 978-4-86110-109-0 電子版のみ ¥4666

人類学

嗜好品から見える社会 大坪玲子 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー)・谷憲一 (上智大学アジア文化研究所共同研究員) 編 現地地嗜好品を見て、体験し、語り合った集大成としての論集。生産・流通・消費における国家や政治との関係も考察しながら、その社会を見る。 ISBN 978-4-86110-802-0 ¥4500

ノー・ルール―英国における民俗フットボールの歴史と文化 吉田文久 (日本福祉大学教授) サッカーやラグビーの起源と称される民俗フットボール。イングランド・スコットランド各地の調査をもとに書かれる、ルールなきスポーツの歴史・文化と楽しみ。 ISBN 978-4-86110-783-2 ¥4300

病いと薬のノスモロジー―ヒマラヤ東部タワンにおけるネット医学、憑依、妖術の民族誌長岡慶 (日本学術振興会特別研究員) ISBN 978-4-86110-710-8 ¥4000

愛と共生のイスラーム―現代エチオピアのスウィズムと聖者崇拜 石原美奈子 (南山大学准教授) 編著 ISBN 978-4-86110-730-6 ¥6300

自著を語る

柴垣登

『インクルーシブ教育のかたち―都道府県ごとの特別支援教育の違いから』



2022年9月9日に、国連障害者権利委員会が、障害者権利条約にもとづく日本の取組み状況に関して、日本政府に改善勧告を出したことは皆さんもご存じのことと思います。精神科への強制入院の廃止、障害のある女性への複合差別の撤廃、支援付き意思決定メカニズムの確立など、その内容は多岐にわたります (詳細はDPI日本会議のウェブサイトをご覧ください)。教育については、すべての障害児の普通学校への通学の保障、特殊学級関連の大臣告示を撤回することなどが求められました。

このうち、特殊学級関連の大臣告示とは、同年4月27日に、文部科学省初等中等教育局長名で出された「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について (通知)」を指します。この通知では、一部の特別支援学級において、適切ではない運用が行われている事例があることを理由に、原則として週の授業時数の半分以上を目安として特別支援学級で授業を行うことなどを求めており、教育における障害のある子どもの分離をいっそう促進するものとして批判があります。

本書では、特別支援教育の対象となる児童生徒数が増加している背景を、特別支援学級、特に自閉症・情緒障害特別支援学級の在籍児童生徒数が増加していることに着目し、各種のデータ、都道府県の特別支援教育に関する振興計画や方針などを分析することによって詳らかにしました。その結果、本人・保護者の思い、学校や地域の状況、それらをふまえた教育委員会の判断など、さまざまな要因があることがわかりました。

文部科学大臣は、改善勧告の内容に関して、その趣旨はふまえるが現在の特別支援教育の制度を変える考えがないこと、また、特別支援学級と通級による指導の適切な運用については、むしろインクルーシブを推進するものであるとの見解を示しています (同年9月13日記者会見)。なぜ、文部科学省はかたくなに現行制度を維持しようとするのでしょうか。本書では、その理由についても考察を加えています。そのうえで、当事者である本人・保護者の願いや思いが尊重され、納得のうえで充実した学校生活を送れるようにするための一つの方法を提案しました。

障害の有無にかかわらず、すべての子どもにとって過ごしやすい学校づくりを進めていくうえで、本書が少しでも役に立つことを願っています。 (8頁に本の紹介)

AUTHOR

日系インドネシア人のエスノグラフィ―紡がれる日系人意識 伊藤雅俊 (日本大学助教) 太平洋戦争後もインドネシアに残留した日本兵たちと彼らの子孫の生活において、「日系インドネシア人である」とはいかなることであるのかを考察する。 ISBN 978-4-86110-769-6 ¥4200
東アジアにおける南島研究―南島史学会創立50周年記念論集 南島史学会 編 ISBN 978-4-86110-742-9 ¥9900



身体を彫る、世界を印す
イレズミ・タトゥーの人類学
山本芳美 (都留文科大学教授)・桑原牧子 (金城学院大学教授)・津村文彦 (名城大学教授) 編
皮膚の上でどのような美が展開し、いかなる想いがせめぎ合っているのだろうか。各地の事例を取りあげ、それぞれの社会の文化、美学、歴史、政治を考察する、日本初のイレズミ・タトゥーの学術論集。
A5判並製・三八四頁 定価(4000円+税)
ISBN 978-4-86110-803-7 二刷



「私らしさ」の民族誌

現代エジプトの女性、格差、欲望
鳥山純子 (立命館大学准教授)

エジプトで学校教師をすることになった人類学者の筆者が、面倒くさくとも魅力的な同僚三人「こじらせ女子」たちの生き様を描く。「他者」に共感しながら「私」を見つける、人の民族誌。
四六判上製・四三三頁 定価(3200円+税)
ISBN 978-4-86110-786-3

エチオピア帝国再編と反乱(ワヤネ)―農民による帝国支配への挑戦 眞城百華(上智大学准教授) ISBN 978-4-86110-721-4 ¥4200

家族を生み出す―台湾をめぐる国際結婚の民族誌 横田祥子(滋賀県立大学准教授) ISBN 978-4-86110-709-2 ¥3600

インド・剥き出しの世界 田中雅一・石井美保・山本達也編 ISBN 978-4-86110-665-1 ¥4800

親子とは何か―ナイジェリア・ハウサ社会における「里親養育」の民族誌 梅津綾子(愛知学院大学他非常勤講師) ISBN 978-4-86110-723-8 ¥4100

持続可能な開発における「文化」の居場所―「誰一人取り残さない」開発への応答 関根久雄編 ISBN 978-4-86110-723-8 ¥4100

アフリカにおけるジェンダーと開発―女性の収入向上支援と世帯内意思決定 甲斐田きよみ ISBN 978-4-86110-700-9 ¥4300

現代世界の呪術―文化人類学的探究 川田牧人・白川千尋・飯田卓編 ISBN 978-4-86110-691-0 電子版のみ ¥4500

同定の政治 転覆する声―アルゼンチンの「失踪者」と日系人 石田智恵(早稲田大学准教授) ISBN 978-4-86110-678-1 ¥3600

ホルネオ 森と人の関係誌 佐久間香子(東北学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-684-2 ¥3900

依存からひろがる人生機会―インド・スラム地域の人間開発と「子育ての民主化」 茶谷智之 ISBN 978-4-86110-677-4 ¥3700

アフリカの森の女たち B・ヒューレット著 服部志帆・大石高典・戸田美佳子訳 ISBN 978-4-86110-682-8 ¥3100

カンボジア 共生の空間―感霊・負の遺産・コミュニティ 牧野冬生・島崎裕子著 ISBN 978-4-86110-661-3 ¥3600

21世紀のメキシコ革命―オアハカのストーリー トアーティストがつむぐ物語歌山越英嗣(都留文科大学准教授) ISBN 978-4-86110-675-0 ¥3600

宗教と開発の人類学―グローバル化するポスト世俗主義と開発言説 石森大知・丹羽典生編 ISBN 978-4-86110-651-4 ¥4000

グローバル都市を生きる人々―イラン人ディアスポラの民族誌 椿原敦子(龍谷大学准教授) ISBN 978-4-86110-599-9 ¥3700

まちづくりのエスノグラフィ―『つくば』を織り合わせる人類学的実践 早川公(大阪国際大学准教授) ISBN 978-4-86110-626-2 二刷 ¥3700

アフリカ漁民文化論―水域環境保全の視座 今井一郎(関西学院大学教授) ISBN 978-4-86110-643-9 ¥3700

流れをよそおう―レバノンにおける相互行為の人類学 池田昭光(明治学院大学助教) ISBN 978-4-86110-587-6 ¥3500

都市の寺廟―シンガポールにおける神聖空間の人類学 福浦厚子(滋賀大学教授) ISBN 978-4-86110-599-9 ¥4000

建築人類学―読む・描く・造る 牧野冬生(早稲田大学芸術学校准教授) ISBN 978-4-86110-539-5 ¥4000

世界遺産の自然と暮らし 今井一郎(関西学院大学教授) ISBN 4-921146-98-5 ¥1905

貧困と連帯の人類学―ブラジルの路上市場における一方的贈与 奥田若菜(神田外語大学准教授) ISBN 978-4-86110-532-6 電子版のみ ¥3700

The Agricultural Mongols ポルジギン・ブレンサイン(滋賀県立大学教授) ISBN 978-4-86110-543-2 ¥6000

「共感」へのアプローチ―文化人類学の第一歩 渥美一弥(自治医科大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-497-8 二刷 ¥2000

霊媒のいる街―北タイ、チェンマイの宗教復興 福浦一男(桐蔭横浜大学准教授) ISBN 978-4-86110-489-3 ¥4000

《紛争》の比較民族誌―グローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混沌 丹羽典生編著 ISBN 978-4-86110-482-4 ¥3700

現代アジアの宗教―社会主義を経た地域を読む 藤本透子(国立民族学博物館准教授) 編 ISBN 978-4-86110-453-4 ¥4200

途上国の目的地―スペイン・サンティアゴ・デ・コンポステーラ 旅の民族誌 土井清美(中央学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-466-4 電子版のみ ¥4000

シヨー・ハフオーマンスが立ち上がる―現代アフリカの若者たちがむすぶ社会関係 大門碧(北海道大学特任助教) ISBN 978-4-86110-449-7 ¥4500

Social Development, Culture, and Participation 阪本公美子(宇都宮大学教授) ISBN 978-4-86110-174-8 電子版のみ ¥6476

インカ帝国の成立―先スペイン期アンデスの社会動態と構造 渡部森哉(南山大学教授) ISBN 978-4-86110-205-9 ¥7619

癒しと呪いの人類学(第2版) 板垣明美(横浜国立大学准教授) ISBN 978-4-921146-86-3 ¥2800

シリーズ 来たるべき人類学(全五巻)

1 セックスの人類学 奥野克巳・椎野若菜・竹ノ下祐一編 ISBN 978-4-86110-180-9 二刷 ¥1905

2 経済からの脱出 織田竜也・深田淳太郎編 ISBN 978-4-86110-200-4 ¥2381

3 宗教の人類学 吉田匡興・石井美保・花瀨馨也編 ISBN 978-4-86110-247-9 ¥1905

4 アジアの人類学 片岡樹・シンジルト・山田仁史編 ISBN 978-4-86110-357-5 二刷 ¥2381

5 人と動物の人類学 奥野克巳・山口未花子・近藤秋編 ISBN 978-4-86110-325-4 ¥2381

刊行予定(タイトルは仮)

▼随想 京都学派の歴史哲学 小野寺功▼仏教儀典の研究 岩松浅夫▼カントの人権思想 菅沢龍文▼新井興選集 コールダニエル編▼誕生と始まりの思想 出雲春明▼デカルトによる修練の哲学 津崎良典▼フイヒテ伝湯浅正彦他訳▼「仮面」としてのディオニュソス 齋藤直樹▼ハンナ・アーレントの政治哲学の射程 奥井剛▼現代のヒンドウー・ナショナリスト・イデオロギーの分析 近藤光博▼Contemporary Fish Days 佐竹晶子▼「土佐日記」の言説研究 佐藤美弥子▼左伝の女たち 尾崎保子▼荒野へ 中井農▼アラブに魅せられて 大月和彦・深田晋一▼S. Elliot 山口敦子▼ジョー・オートン 矢島直子▼バーナード・ショー 森川寿他▼アロエ 宗洋訳▼ミルトン研究案内ミルトン協会編▼人形とイギリス文学 川崎明子▼空腹のアイランド 田多良俊樹▼カフカエスクを超えて 松原好次▼越境のパラダイム 今村武・佐藤憲一▼オースティンとエリオット 惣谷美智子・新野緑▼ロマン主義的感性論の現在 高橋優▼1968 失踪するアメリカ 大場健司▼作家・吉屋信子論 山田昭子▼「怒り」の文学化 栗山雄佑▼狐物語とその周辺 高名康文▼メタファーから読む樋口一葉 笹川洋子▼賢治の前を歩んだ妹 山根知子▼精読「紅樓夢」池間里代▼ダグラス 三原徳訳▼新先蹤録 秋田高校同窓会・栄養のない野菜 山田英美▼長閑の世界へようこそ 細谷朋子▼伝承で読み解く文化―藤倉恵子▼ミットフォードとギネス一族の御書司 大西俊男訳▼世紀転換期の思想と文学 清松大▼外交としての芸能 我部大和▼「エリーザベト」の旅 関根裕子▼17〜18世紀のポラーノ 演劇史 谷山和夫訳▼日本におけるヘル・カントの父 アドルフ・サルコリ 直江学美▼「新ドイッチ派」の成立 上山典子▼レオナルド・ダ・ヴィンチ研究 田辺清▼益裁 川崎仁美▼江戸時代の唐画 伊藤紫織▼皮膚感覚を論じる 平芳幸浩他▼1950〜80年代の宝塚歌劇における取り組みの多様性 中本千晶▼暮らしのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼「と」と教育 橋本ゆかり▼言語・認知理論からの日本語教育実践 橋本ゆかり▼自律のための教育学 大川洋▼薙刀と学校教育 育井上アヤ子▼健康自然塾 川村協平▼インターフェイス・スピリチュアルケア 小西達也▼教育の理念・歴史・思想 藤井基貴・中村美智太郎編▼大学の理念 豊崎光衛訳▼ジョン・デューイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼哲学教育論 生澤繁樹▼教育人間学の再検討 宮嶋秀光▼アーベルの討論倫理学に関する教育学的研究 丸橋静香▼一般科学教授学綱要 牛田伸一訳▼社会教育における生活記録の系譜 新井浩子▼ドイツの幼児教育におけるビルドゥング 中西さやか▼フンボルトの陶冶理論と教育改革 宮本勇一▼ディープ・アクティブラーニングのはじめ方 山川修・早川公▼「コト」デザイン 山川修・谷内真之助▼教授学へのいざない 松田充・宮本勇一・熊井将太訳▼留学のための異文化トレーニング 勝又恵理子▼東日本大震災と未来の創造 橋本恵司▼戦前戦日本における精神衛生相談の諸相 末田邦子▼自己

出版をお考えの方へ

清新なお原稿をお待ちしています。お気軽にお問い合わせください。

春風接人

昭和を代表する歌手であり、わが母校の誇らしき先輩である東海林太郎(しやうじたらう) 1898〜1972の特集をテレビでやっていった。ゲストは「愛して愛して愛しちゃったのよ」が大ヒットした歌手の田代美代子さん。若いとき、親交のあった東海林に「愛して愛して愛しちゃったのよ」を歌うのが恥ずかしいと語ったことがあったらしい。そのとき東海林は、「歌詞には、作詞家のいろいろな気持ちがあるから、そんなに思う必要はありませんよ」という主旨の話をした。新井興選の「一語に万意」にも、アランのプロポにも、意味に解消されない多くの気持ちと「ころがこめられている」。